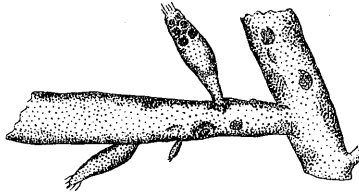


枝の幾らかは同じく円柱状で時に疎に羽状分岐を示す匍枝状となり、その先端が基質に附着し、その枝の一部の一つが正常な直上枝となつている場合が観察された。



第5図 モサヤナギの Stichidia (×20)

Chondria expansa Okamura モサヤナギ

この種類の生殖器官については、日本海藻誌でも“果実は知られず”と記述されているが、材料中に僅かながら第5図のような四分孢子囊をつけている枝を見出す事が出来た。即ち、stichidia は殆ど普通の小枝と一致する。

Chondria lancifolia Okamura

ササバヤナギノリ

Laurencia sp. ソゾ属の1種

Sect. Forsterianae 及び Cartilagineae に属するもの各々1種ずつ見出された。

〇オオバクロモジ (檜山庫三) Kôzô HIYAMA: *Lindera umbellata* Thunb. var. *aurantiaca* (Murai) Hiyama

オオバクロモジは、分布などの点を考慮すれば、クロモジから区別せずにおくのは妥当でないが、これをクロモジの品種と見るか変種と見るかについては必しも意見の一致を見ない。クロモジの仲間は種別が難かしいために、前にはかなり混雑していたらしく、C. S. Sargent の Forest Flora of Japan ではオオバクロモジが *Lindera sericea* となつているし、肝心の *Lindera umbellata* の方はカナクキノキを指したものととなっている。さて、このオオバクロモジをクロモジの変種と看做すと、村井三郎氏の岩手県基準帯植物目録(昭和10年)にキミノオオバクロモジというものが既に記載されているのでこれが考慮されてくることになつて、現行の学名は改変の要を生じてくるから、私はここにキミノオオバクロモジの学名を *Lindera umbellata* var. *aurantiaca* Hiyama と定め、またオオバクロモジには *Lindera umbellata* var. *aurantiaca* f. *membranacea* Makino の名を用うべきものであると考える。

Lindera umbellata Thunb., Gen. Nov. Pl. 2: 64 (1783) cum fig.; Kaempf. III. 2: 37 et 40 (1783); Fl. Jap. 145, t. 21 (1784).

var. **aurantiaca** (Murai) Hiyama, comb. nov.

Benzoin membranaceum var. *aurantiacum* Murai, Fl. Cent. Iwate 37 (1935).

Lindera umbellata var. *membranacea* f. *aurantiaca* Okuyama in Journ. Jap. Bot. 30: 40 (1955).

Nom. Jap. Kiminô-ôbakuromoji. Distr. Hondo borealis.

forma **membranacea** (Maxim.) Makino in Makino et Tanaka, Man. Fl. Nipp. 203 (1927), ut *L. umbellata* f. *membranacea*, comb. nud.

Lindera membranacea Maxim. in Bull. Acad. Imp. Sci. St.-Petersb. 12: 72 (1867).

L. umbellata var. *membranacea* Momiyama in Sci. Res. Ozegahara 440 (1954).